

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標 1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-1 特定教育・保育事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
1	幼稚園長時間預かり保育補助事業	幼稚園利用の推進、保育園の待機児童解消、子育て家庭の就労機会拡大のため、幼稚園教育時間の前後や春季・夏季及び冬季休園時に預かり保育を実施する市内私立幼稚園に対し、人件費等の補助を行う。	16,946,200	保護者の就労・疾病等により、日中保育に欠ける幼児に対し、幼稚園教育時間の前後や春季・夏季及び冬季休園時に預かり保育を実施した。 市内幼稚園3か所	3	3	3	23,049,000	保護者の就労・疾病等により、日中保育に欠ける幼児に対し、幼稚園教育時間の前後や春季・夏季及び冬季休園時の預かり保育を引き続き実施していく。 市内幼稚園3か所		保育課
2	産休明け保育の充実	出産後の養育者の就労と子育ての両立支援を図るため、産休明け保育事業の充実を図る。	—	認可保育園46園中14保育園で産休明け保育を実施した。	3	3	2	—	認可保育園51園中16保育園で産休明け保育を実施する。		保育課
3	保育園における幼児教育の充実	保育園から小学校の教育へ円滑に移行できるよう、保育園における幼児教育の充実を図る。	—	保育園から小学校の教育へ円滑に移行できるよう、保育園における幼児教育の充実を推進した。	3	3	3	—	保育園から小学校の教育へ円滑に移行できるよう、保育園における幼児教育の充実を推進する。		保育課
4	家庭保育室委託事業の充実	保護者の就労・疾病等により、家庭での保育が困難な乳幼児の保育業務を保育室に委託し、実施する。	54,065,656	保護者の就労・疾病等により、保育に欠ける乳幼児の保育業務を保育室に委託し、実施した。 また、家庭保育室を利用する保護者の負担を少なくするため、保育料の軽減の対象年齢の拡大を図った。 市内保育室8か所 市外保育室4か所 平成28年度利用乳幼児数延べ749名	5	5	5	2,839,000	保護者の就労・疾病等により、保育に欠ける乳幼児の保育業務を保育室に委託し、実施する。 また、家庭保育室を利用する保護者の負担を少なくするため、保育料の軽減の対象年齢の拡大を図る。 市内保育室5か所 市外保育室4か所		保育課
5	家庭保育室の小規模保育事業への移行推進・支援	埼玉県による家庭保育室事業が平成31年度に終了となる見込みであることから、各保育室の小規模保育事業への移行推進・支援を行う。	15,555,000	家庭保育室の小規模保育事業への移行推進・支援を行った。 小規模保育事業へ移行 1か所 認可保育園へ移行 1か所	5	5	5	0	家庭保育室の小規模保育事業への移行推進・支援を行う。 小規模保育事業へ移行 1か所		保育課
6	サービス評価の仕組みの導入・実施	保育サービスの評価等仕組みの導入・実施について取組を進める	—	福祉施設第三者評価の成果・結果の採用に努めた。	1	3	1	—	福祉施設第三者評価の成果・結果の採用に努める。		保育課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-2 地域子ども・子育て支援事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
7	教育・保育事業及び地域子育て支援サービスに関する情報提供の充実	地域における多様な子育て支援サービスの情報を一元的に把握するとともに、子育て家庭に対する総合的な情報提供、利用援助等の支援を行う。	2,569,780	利用者支援事業（特定型）として、利用者支援員を配置した。	3	4	1	2,808,407	継続して配置	特定型の利用者支援員の増員及び包括支援体制の整備を見据えた利用者支援事業（基本型）の実施が課題。	こども支援課
8	児童センター業務の充実	指定管理者制度による事業受託者と連携し、子どもに豊かな生活を提供できるようにスポーツ、文化、レクリエーション等の多彩なプログラムを展開し、児童センター業務の充実を図る。プログラムの策定に当たっては、子どもの参画を推進する。	52,249,906	新座市児童センター及び福祉の里児童センターの運営、管理を指定管理者のNPO法人に委託した。 ・新座市児童センター 利用者数：77,662人 主な事業：「モリモリタイム」「天体観望会」など 事業開催回数・参加者数：延べ1,610回、31,069人 ・福祉の里児童センター 利用者数：46,525人 主な事業：「ぐんぐんタイム」「ラスベリータイム」など 事業開催回数・参加者数：延べ1,209回、13,820人 指定管理者では自主事業として厚生労働省の「平成28年度児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務」の補助金を活用し、「あそびサイエンス」のプログラム開発を行った。	5	3	5	86,933,000	児童センター運営は引続き指定管理者であるNPO法人新座子育てネットワークに運営委託するとともに、平成29年度をもって指定管理期間が満了となるため、平成30年度から平成34年度までを指定管理期間とする指定管理者の公募を行う。 また、新座市児童センターについて冷暖房設備等が老朽化に伴い不具合が発生しているため改修工事等を行う。		こども支援課
9	休日保育の充実	休日の保育の需要に対応するため、休日保育を保育園で実施する。	—	法人保育園1園で実施した。 平成28年度延べ児童利用数269人	3	3	3	新座保育園で実施した。 平成29年度延べ児童利用数214人	法人保育園での事業継続が困難なために公立保育園で平成23	保育課	
10	夜間保育の検討	保護者の就労などにより、夜間の保育を必要とする子どものために夜間保育の実施を検討する。	—	実績なし				実施について検討中		保育課	
11	幼稚園就園奨励費等補助	私立幼稚園就園奨励費補助金、就園費補助金、幼稚園入園費補助金等の拡充等により、保護者の経済的負担の軽減を図り、幼稚園への就園を推進する。	326,046,377	保護者の経済的負担の軽減のため、私立幼稚園就園奨励費補助金等を交付した。 就園奨励費（国庫補助）2,231人 303,254,000円 就園費補助金（市単独補助）462人 13,594,500円 入園費補助金（市単独補助）899人 4,495,000円	3	3	3	340,513,000	継続して実施する。		保育課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

1-2 地域子ども・子育て支援事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
12	新座市子どもの放課後居場所づくり	小学校施設（教室や校庭など）を活用し、地域の方々のご協力を得ながら、子どもたちが安全・安心に集える居場所をつくる。学習や遊び、体験・交流活動などの機会を提供することにより、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。	50,391,309	東野小、石神小、東北小、新堀小、第四小、野寺小、栗原小、新開小の計8校で実施	5	5	5	55,820,000	東野小、石神小、東北小、新堀小、第四小、野寺小、栗原小、新開小、大和田小の計9校で実施	平成32年度までに全17小学校に開設する計画となっているが、活動拠点となる教室の確保が困難な学校がある。	生涯学習スポーツ課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために
1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
13	児童相談の充実	家庭における適切な児童の養育と、養育に関連して発生する児童の問題の解決を図るため、家庭児童の福祉に関して専門的に相談、指導に当たる。	—	公立保育園の園長及び山びこ保育園の保育士、栄養士、看護師が主に乳幼児の保護者の育児の悩みや相談に応じた。	3	3	3	—	公立保育園の園長及び山びこ保育園の保育士、栄養士、看護師が主に乳幼児の保護者の育児の悩みや相談に応じる。		保育課
14	児童相談の充実	家庭における適切な児童の養育と、養育に関連して発生する児童の問題の解決を図るため、家庭児童の福祉に関して専門的に相談、指導に当たる。	1,564,421	電話又は来庁によって児童の相談を受けた。 新規相談受付件数 294件	5	3	5	1,427,000	電話又は来庁によって児童の相談を受ける。	引き続き、児童相談の支援を行う	こども支援課
15	児童の権利に関する啓発	子どもの保護と基本的人権の尊重を促進することを目的とした「子どもの権利条約」の啓発・普及に努める。	—	子どもの保護と基本的人権の尊重を促進することを目的とした「子どもの権利条約」の啓発・普及に努めた。	1	3	1	—	子どもの保護と基本的人権の尊重を促進することを目的とした「子どもの権利条約」の啓発・普及に努める。		保育課
16	児童の権利に関する啓発	子どもの保護と基本的人権の尊重を促進することを目的とした「子どもの権利条約」の啓発・普及に努める。	—	子どもの保護と基本的人権の尊重を促進することを目的とした「子どもの権利条約」の啓発・普及に努めた。広報5月号に啓発記事を掲載。	5	3	5	—	子どもの保護と基本的人権の尊重を促進することを目的とした「子どもの権利条約」の啓発・普及に努める。広報5月号に啓発記事を掲載。	引き続き啓発を行う	こども支援課
17	食育事業（エプロンシアター）	市内幼稚園・保育園の子ども及びその保護者に対し、栄養士によるエプロンシアターを行うことにより、幼児期からの食育を通じて日常の正しい食習慣を形成し、子どもたちのより健やかな成長と食生活の改善を図る。公立保育園及び希望する幼稚園に対して地域活動栄養士会と協働し、エプロンシアターを実施する。	42,000	公立保育園6園に対し1回ずつ実施した。 (幼稚園については保健センター担当)	5	3	5	42,000	公立保育園6園に対し1回ずつ実施予定。		保育課

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
18	食育事業（エプロンシアター）	市内幼稚園・保育園の子ども及びその保護者に対し、栄養士によるエプロンシアターを行うことにより、幼児期からの食育を通じて日常の正しい食習慣を形成し、子どもたちのより健やかな成長と食生活の改善を図る。公立保育園及び希望する幼稚園に対して地域活動栄養士会と協働し、エプロンシアターを実施する。	49000	市内幼稚園の子ども及びその保護者に対し、栄養士によるエプロンシアターを行い、幼児期からの食育を通じて日常の正しい食習慣を形成し、子どもたちのより健やかな成長と食生活の改善を図った。希望する幼稚園に対して地域活動栄養士会と協働し、エプロンシアターを実施した。幼稚園7園で実施、のべ1,052名	4	3	5	49000	市内幼稚園、子育て支援センター利用の子ども及びその保護者に対し、栄養士によるエプロンシアターを行い、幼児期からの食育を通じて日常の正しい食習慣を形成し、子どもたちのより健やかな成長と食生活の改善を図る。希望する幼稚園に対して地域活動栄養士会と協働し、エプロンシアターを実施する。幼稚園4園、子育て支援センター3カ所実施予定。		保健センター
19	給食放射性物質検査事業	福島第一原子力発電所の事故以来、食材への不安が寄せられていることから、保育園及び学校の給食、食材の安全性の確認を目的として、給食食材、提供食について放射性物質検査を実施する。	291,600	公立保育園において、一週間分の給食をまとめた検体の測定を月に4園（10月以降は2園）実施した。さらに、市の簡易測定器を用いて、2日分の給食をまとめた検体および食材の測定を月に2回実施した（9月まで）。	5	2	5	195,000	公立保育園において、一週間分の給食をまとめた検体の測定を月に2園実施予定。	放射性物質測定について、全庁的な見直しを行った。簡易測定の廃止と、一週間分の給食をまとめた検体の測定の頻度を月4園から月2園に変更した。	保育課
20	給食放射性物質検査事業	福島第一原子力発電所の事故以来、食材への不安が寄せられていることから、保育園及び学校の給食、食材の安全性の確認を目的として、給食食材、提供食について放射性物質検査を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・検査委託料 741,312円 ・食材費負担金 115,530円 ・消耗品費（検体） 15,924円 合計 872,766円	<ul style="list-style-type: none"> ・一週間分検査：88検体 ・一食分検査：22検体 ・食材検査：42検体 	4	3	5	<ul style="list-style-type: none"> ・検査委託料 845,000円 ・食材費負担金 116,000円 合計 961,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・一週間分検査：92検体 	第12回新座市放射線対策本部において、新座市における放射性物質検査について、測定頻度等の見直しが行われ、平成28年11月から一食分検査及び食材検査は廃止となった。	学務課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
21	子どもの健全育成事業	被保護世帯の子どもが、健全に育成される環境を整備するため、子ども育成支援相談員を生活福祉課に配置し、支援する。	1,869,820	被保護世帯の子どもが健全に育成される環境の整備に向けて、日常生活自立支援や養育、教育を支援する専門相談員を配置した。28年度の支援世帯数79世帯。	3	4	4	1,860,000	長期的な関わりを持つ中で信頼関係を築き、家庭環境の改善や子どもの学習支援につなげていくとともに、就労支援につなげていくことで貧困の連鎖を生じさせない取組を行う。		生活支援課
22	子育て支援ホームヘルパー派遣事業	出産直後の母親のいる家庭で、親族などから家事援助が望めない家庭に対し、ホームヘルパーを派遣する。	425,012	申込件数14件、派遣件数10件 派遣日数99日、派遣時間172.5時間	2	3	5	870,000	H28年度同様に実施予定		子ども支援課
23	ファミリー・サポート・センター産後育児サポート事業	出産後から生後2か月未満の子どものいる家庭で、沐浴や授乳等の育児に関わるサポートを行う。	— (ファミリー・サポート・センター事業の中で実施)	産後育児サポートは延べ23回実施。またサポートを行う援助会員を養成する産後育児サポート講習会を年1回実施	4	3	4	— (ファミリー・サポート・センター事業の中で実施)	引続き、産後育児サポートを実施していく。		子ども支援課
24	保育園における食育の推進	保育園の食事・行事・日常の保育を通して、健康な心身と良い食習慣を形成する。	—	給食時の給食指導、調理保育、野菜の栽培を実施した。	4	3	5	—	H28年度同様に実施予定		保育課
25	子ども医療費の助成	子どもが必要とする医療を容易に受けられるようにするため、子どもが医療機関にかかった際に窓口で支払う保険診療の自己負担分を助成する。	646,251,848	子ども（18歳となる年度末まで）が必要とする医療を容易に受けられるようにするため、子どもが医療機関にかかった際に窓口で支払う保険診療の自己負担分の医療費を支給した。 支給件数 359,560件 支給額 646,251,848円	5	3	5	649,469,946	子どもが必要とする医療を容易に受けられるようにするため、子どもが医療機関にかかった際に窓口で支払う保険診療の自己負担分を助成する。	医療費の抑制に係る対策	子ども給付課
26	児童手当の支給	児童手当を支給し、家庭生活の安定と子どもの健全な育成を図る。	2,708,190,000	児童手当支給延児童数251,359人	5	3	5	2,744,255,000	手当の支給を継続する。		子ども給付課
27	家庭児童相談室	家庭における適切な児童の養育と、養育に関連して発生する児童の問題の解決を図るため、家庭児童の福祉に関して専門的に相談・助言に当たる。さらに、必要があれば専門機関への紹介も行う。	11,818,667	家庭における適切な児童の養育と養育に関して発生する児童の問題の解決を図るため、家庭児童の福祉に関して相談を受けた。 相談件数延べ5,754件	5	3	5	12,863,000	家庭における適切な児童の養育と養育に関して発生する児童の問題の解決を図るため、家庭児童の福祉に関して相談を受ける。	引き続き相談活動を実施	子ども支援課

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
28	3歳児グループ指導（でんでんむしの家）	発達支援や育児支援が必要とされる児童及び親（家庭）に対して、集団指導や相談活動を通して支援を行う。	— (家庭児童相談室決算額に含まれる)	発達、育児支援の必要とされる児童及び親（家庭）に対して集団指導や相談活動を通して支援を行った。また、他機関との連携も図った。 年間39回実施。参加延べ児童数350名。心理士による心理相談（グループ指導、個別相談、カンファレンス）13回、作業療法士による療育相談（グループ指導）4回実施。	5	3	5	— (家庭児童相談室予算額に含まれる)	発達、育児支援の必要とされる児童及び親（家庭）に対して集団指導や相談活動を通して支援を行う。また、他機関との連携も図る。 年間39回実施予定。心理士による心理相談（グループ指導、個別相談、カンファレンス）13回、作業療法士による療育相談（グループ指導）4回実施予定。	引き続きグループ指導を実施	子ども支援課
29	3歳児グループ指導事後フォロー（とんぼグループ）	でんでんむしの家の卒業児及び3歳児、4歳児及び5歳児で家庭児童相談員と関わりのある親子を対象に個別的、集団的なテーマを通して子どもの成長を促す。	— (家庭児童相談室決算額に含まれる)	でんでんむしの家卒業以降も発達支援や育児支援の必要とされる、児童及び親（家庭）に対して集団指導や相談活動を通して支援を行った。年間3回実施。（台風のため1回中止） 参加延べ児童数51人	5	5	5	— (家庭児童相談室予算額に含まれる)	でんでんむしの家卒業以降も発達支援や育児支援の必要とされる、児童及び親（家庭）に対して集団指導や相談活動を通して支援を行う。 年間6回実施予定。	より細やかな支援を行うため、2グループに分け、1グループあたり3回実施に変更。	子ども支援課
30	ひとり親家庭相談	ひとり親家庭に関する相談に応じ、助言指導や関係機関の紹介などを行う。	6,366	・電話・面接・訪問による相談 ・ひとり親家庭児童就学支度金、母子及び父子並びに婦福祉資金貸付の進達事務を行った。	2	3	2	9,000	・随時、電話・面接・訪問による相談を実施。 ・ひとり親家庭児童就学支度金、母子及び父子並びに婦福祉資金貸付の進達事務を行う。		子ども支援課
31	家庭児童相談員の健診事業等への参加	1歳6か月児健診や3歳児健診の会場で発達や育児の相談を受け、必要に応じグループ指導につなげたり、専門機関へ紹介を行うなど、関係機関と連携を図りながら支援を行う。	— (家庭児童相談室決算額に含まれる)	1歳6か月児健診や3歳児健診の会場で発達や育児の相談を受け、必要に応じ健診事後指導グループにつなげたり、専門機関へ紹介を行うなど関係機関と連携を図りながら支援を行った。 1歳6か月児健診、3歳児健診年間各24回、1歳6か月児健診事後指導グループ年間24回実施。	5	3	5	— (家庭児童相談室予算額に含まれる)	1歳6か月児健診や3歳児健診の会場で発達や育児の相談を受け、必要に応じ健診事後指導グループにつなげたり、専門機関へ紹介を行うなど関係機関と連携を図りながら支援を行う。 1歳6か月児健診、3歳児健診年間各24回、1歳6か月児健診事後指導グループ年間24回実施予定。	引き続き保健センターと連携を行う	子ども支援課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
32	乳幼児相談の充実	保健師と栄養士・歯科衛生士で実施しているが、利用者が気軽に相談できるように、利便性を考慮し、周知方法や実施方法を工夫しながら推進する。	462,731	保健センターにて保健師、栄養士・歯科衛生士による相談を、月1回（年12回）ずつ実施。延830人が来所した。	3	2	4	449,670	保健センターにて保健師、栄養士・歯科衛生士による相談を、月1回（年12回）ずつ実施。		保健センター
33	栄養相談・栄養指導の実施	乳幼児健診や乳幼児相談において、栄養士による相談及び食育啓発に関するチラシの配布を行い、乳幼児の家庭での食事を通じた健康づくりや食育の支援を行う。	—	乳幼児健診や乳幼児相談において、栄養士による相談及び食育啓発に関するチラシの配布を行い、乳幼児の家庭での食事を通じた健康づくりや食育の支援を行った。また、3歳児健診では栄養士による食育紙芝居コーナーを設置した。乳幼児相談12回、乳幼児健診96回実施、相談者のべ655名	4	3	5	—	乳幼児健診や乳幼児相談において、栄養士による相談及び食育啓発に関するチラシの配布を行い、乳幼児の家庭での食事を通じた健康づくりや食育の支援を行う。また、3歳児健診では栄養士による食育紙芝居コーナーを設置する。乳幼児相談12回、乳幼児健診96回実施予定		保健センター
34	乳幼児健康診査の充実	乳幼児を対象に発育・発達状況の確認と疾病の早期発見及び育児不安の軽減や解消を図るために実施する。	18,093,070	保健センターを会場に、3～4か月児、9～10か月児の健康診査、保健センター及び市民会館を会場に1歳6か月児、3歳児はふるさと新座館も会場に加え健康診査を実施した。 回数は各健診2回/月の96回/年。受診者は3～4か月児：1,314人（97.1%）、9～10か月児：1,309人（96.0%）、1歳6か月児：1,387人（97.7%）、3歳児：1,446人（95.1%）であった。 ※ ○ 内は受診率	4	3	5	19,468,000	昨年度に引き続き、乳幼児を対象に発育・発達状況の確認と疾病の早期発見及び育児不安の軽減や解消を図るために実施予定。	各健診受診率をさらに向上するため周知徹底を図り、未受診児数の減少。未受診児の状況把握、確認の徹底。	保健センター
35	乳幼児歯科健診の充実	歯科健診及び歯科衛生士による集団ブラッシング指導を実施する。	1歳6か月児健診：2,186,660円 2歳児歯科：719,303円 3歳児健診：2,333,359円 親子歯科：2,623,393円 計：7,862,715円	1歳6か月児健診、3歳児健診時に歯科健診を実施。各年24回実施。受診者は1歳6か月児健診1,387人、3歳児健診1,446人。希望者にフッ化物塗布を実施、1,302人が塗布した。2歳児歯科健診は年6回実施、受診者は395人。親子歯科健診（5歳児歯科健診）は8月～11月の間に歯科医院での個別健診を実施。受診児数は322人、フッ化物塗布は311人が受けた。	4	3	5	1歳6か月児健診：2,263,602円 2歳児歯科健診：718,802円 3歳児健診：2,507,314円 親子歯科健診：3,048,074円 計：8,537,792円	昨年度に引き続き、1歳6か月児健診、3歳児健診時に歯科健診を実施。各年24回実施予定。希望者にフッ化物塗布を実施する。2歳児歯科健診は、偶数月、年6回実施予定。親子歯科健診（5歳児歯科健診）は8月～11月の間に協力歯科医院での個別健診を実施予定。		保健センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために
1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
36	1歳6か月児健康診査事後指導（こころクラブ）	1歳6か月児健診等において、継続的な相談が必要と思われる幼児及びその保護者に対し、集団遊びや個別相談を実施する。	233,584	実施回数：年長12回、ひよこ11回(1回雪のため中止)。年長：参加実人数37名、参加延人数106名(どちらも見学含む)ひよこ：参加実人数25名、参加延人数102名(どちらも見学含む)	4	3	4	251,718	1歳6か月児健診等において、継続的な相談が必要と思われる幼児及びその保護者に対し、集団遊びや個別相談を実施予定。(年長及びひよこにて各12回ずつ)		保健センター

基本目標 1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
37	母子愛育会活動の助成	母と子の保健を中心に地域の健康づくりを推進している活動を支援する。	—	母子保健を中心に地域の健康づくりを推進している活動を実施。市内公民館や集会所3施設では「母と子のつどい」を開催。その他「応急処置講習会」、「子育て講演会」、「はいはいコンクール」等を開催し、保護者387名、乳幼児322名参加（延べ人数）。	4	3	4	—	昨年同様、「母と子のつどい」や「子育て講演会」等の開催を予定している。		保健センター
38	小児救急医療支援事業	夜間や休日においても小児科医を確保する体制を構築するため、「小児病院群輪番制」の参加病院に対し運営費の一部を補助し、小児医療の充実を図る。	2,429,769	夜間や休日において小児科医を確保する「小児病院群輪番制」の参加病院に対して運営費の一部を補助し、小児医療の充実を図った。朝霞地区管内6市1町で、2病院が実施。新座市分補助金2,429,769円	4	3	5	2,428,370	「小児病院群輪番制」の参加病院に対して運営費の一部を補助予定。朝霞地区管内6市1町で、2病院が実施予定。	現在の小児救急、新生児医療体制を継続・発展させるためには、現在よりも多くの人員が必要であると考えられる。小児科医、産科医の確保が課題である。	保健センター
39	医療情報の提供	広報及びホームページを通じて休日診療・救急病院等の情報提供を行う。	—	広報及びホームページを通じて休日診療・救急病院等の情報提供を行った。通常の情報提供に加え、年末年始、GW、お盆期間等の連休時の情報も提供している。	4	3	4	—	引き続き、広報及びホームページを通じて休日・救急病院等の情報提供を実施していく予定。		保健センター
40	教育インターネット環境の充実	小・中学校間のみならず他の教育機関も含めたインターネット環境を整備することで、教育指導や授業方法等の充実を図る。	18,252,908円	27年度プロバイダを見直し、安定的な運用を図る。	5	3	5	18,279,000円	安定的な運用を図る。		教育総務課
41	コンピュータ教育の充実	情報化の進展に対応した学習環境を推進するため、小・中学校の授業等に校内LANを活用し、よりわかりやすい授業を実施する。	111,223,221円	校務システム及び授業支援校システムを活用し、教育におけるコンピュータ環境の充実を図った。	5	3	5	111,551,000円	従来のシステムを適切に運用し、適宜システムの見直しを図る。		教育総務課
42	就学援助制度	経済的な理由により就学が困難と認められる場合に、保護者に対して、小・中学校でかかる経費（学用品費、学校給食費、林間学校費、修学旅行費等）を援助する。	・小学校 56,280,836円 ・中学校 54,637,924円 合計 110,918,760円	認定数 ・小学校 875人 ・中学校 517人 合計 1,392人	4	5	5	・小学校 66,864,000円 ・中学校 72,068,000円 合計 138,932,000円	認定数 ・小学校 838人 ・中学校 515人 合計 1,353人	小・中学校入学予定者の保護者に対し、新入学児童生徒学用品費を入学前に支給するという事業の拡大を行った。国・県からの通知に基づき、援助を必要とする時期に速やかに援助を行うためである。	学務課

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
43	情報教育の推進	子どもの情報活用能力を育成するメディアリテラシー教育の実施とともに、情報機能のネットワーク化を図る。	5,715,008	児童生徒の情報活用能力を育成することを目標に、全小中学校4校に1人、コンピュータ業務補助員を配置し、その活用を図る授業実践を推進した。	4	3	5	5,934,000	児童生徒の情報活用能力を育成することを目標に、全小中学校4校に1人、コンピュータ業務補助員を配置し、その活用を図る授業実践を推進する。情報機器の利点を生かして、調べ学習で活用したり、発表活動で自分の考えを他に分かりやすく表現したりする方法を学習する。また、デジタル教科書を利用して児童生徒にとって分かりやすい授業づくりに取り組む。	現状のまま、事業を継続していく。	指導課
44	学校における食育の推進	子どもたちが、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるように、農業体験の実施や地域の協力を得ながら、朝食欠食率の減少を目指し、栄養等について学ぶ場の充実を図る。	—	子どもたちが、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせることができるように、農業体験の実施や、地域の協力を得ながら、朝食欠食率の減少を目指し、栄養等について学ぶ場の充実を図った。	3	3	3	—	子どもたちが、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせることができるように、農業体験の実施や、地域の協力を得ながら、朝食欠食率の減少を目指し、栄養等について学ぶ場の充実を図る。 各校における朝食欠食率をデータ化し、家庭・地域へ啓発する。		指導課
45	教育相談事業の充実	教育相談員の配置を見直し、学校カウンセラー等との連携を一層密にし、教育相談の充実を図る。	7,761,600	教育相談室に教育相談員4人と学校カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、特に学童期・思春期における心の問題について電話や来談による相談体制の充実を図った。 平成28年度教育相談室相談件数6,450件	3	3	4	8,358,000	引き続き、教育相談室に教育相談員4人と学校カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、特に学童期・思春期における心の問題について電話や来談による相談体制の充実を図る。		教育相談センター

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-3 子どもの育ちを応援する事業

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
46	巡回相談カウンセラー制度	通常の学級に在籍している特別な教育的支援を必要とする児童生徒の支援について指導及び助言する巡回相談カウンセラーを学校に派遣する。	540,000	通常の学級に在籍している特別な教育的支援を必要とする児童生徒の支援について指導及び助言を行った。また、乳幼児期からの早期発見、早期就学支援を行う巡回相談員を幼稚園及び保育園に派遣した。 巡回相談カウンセラー54回	3	3	4	600,000	引き続き、通常の学級に在籍している特別な教育的支援を必要とする児童生徒の支援について指導及び助言を行う。また、乳幼児期からの早期発見、早期就学支援を行う巡回相談員を幼稚園及び保育園に派遣する。		教育相談センター
47	登校支援事業	新座市教育相談室で教育相談員（4人）と学校カウンセラー（2人）が電話・来室相談やカウンセリングを行い、必要な場合は、学校訪問や家庭訪問も行う。	7,761,600	教育相談室に教育相談員4人と学校カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、特に学童期・思春期における心の問題について電話や来談による相談体制の充実を図った。 平成28年度教育相談室相談件数6,450件	3	3	4	8,358,000	引き続き、教育相談室に教育相談員4人と学校カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、特に学童期・思春期における心の問題について電話や来談による相談体制の充実を図る。		教育相談センター
48	ピア・サポーター派遣事業	地域の大学の臨床心理学部等と連携することにより、大学生をサポーターとして各学校等に派遣し、不登校児童生徒・集団不応児童生徒への支援活動を行う。また、大学教授がスーパーバイザーとして専門的な立場から教員等に指導助言を行う。	1,282,000	地域の大学の臨床心理学系、教員養成系学部と連携することにより、100人規模で大学生・大学院生をサポーターとして各学校等に派遣し、不登校児童生徒・集団不応児童生徒への支援活動を行った。 派遣回数 1,282回	3	3	4	1,350,000	引き続き、地域の大学の臨床心理学系、教員養成系学部と連携し、大学生・大学院生をサポーターとして各学校等に派遣し、不登校児童生徒・集団不応児童生徒への支援活動を行う。		教育相談センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために
1-4 児童虐待防止に向けた取組

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
49	新座市要保護児童対策地域協議会	支援対象児童等を支援するため、福祉・保健・医療・教育・警察など関係機関が連携し、要保護児童対策地域協議会を設置し、子どもや家族への援助の方法や対策を協議し対応を図る。	690,236	代表者会議：2回（うち1回はCAP研修） 実務者会議：12回 個別ケース検討会議：46回 研修会：1回	5	3	5	438,000	代表者会議：2回（うち1回はCAP研修） 実務者会議：12回 個別ケース検討会議：随時 研修会：1回	引き続き、支援対象児童等への支援を行う	子ども支援課
50	緊急一時保護	緊急一時保護が必要な児童に対し調査を実施し、必要と認められる場合、児童相談所に通告を行う。	—	緊急一時保護が必要な児童に対し調査を実施し、必要と認められる場合、児童相談所に通告した。 保護延べ件数61件	—	3	—	—	緊急一時保護が必要な児童に対し調査を実施し、必要と認められる場合、児童相談所に通告する。	引き続き、保護が必要な児童に対して調査及び通告を行う。	子ども支援課
51	CAPプログラムの実施	いじめや虐待などの暴力から身を守る方法を実践的に学ぶためのCAPプログラムを実施する。	35,000	新座市要保護児童対策地域協議会の構成員を対象に大人向けCAP研修を実施。 参加者35人	3	3	3	35,000	新座市要保護児童対策地域協議会の構成員を対象に大人向けCAP研修を実施。	引き続き、CAP研修を実施する。	子ども支援課
52	里親支援事業	所沢児童相談所と協力し、里親に対して児童の養育方法の技術の向上等を図るため、また、養育家庭における様々な問題を解決していくための研修や交流の場を提供する。また、「新座地区里親会」及び里親家庭の支援を行う。	65,200	「新座地区里親会」の事務局となり、里親家庭と里親会の支援を行った。 市内登録里親16世帯 広報にいざ10月号に制度普及記事掲載。	3	3	3	68,000	「新座地区里親会」の事務局となり、里親家庭と里親会の支援を行う。 広報にいざに制度普及記事掲載。	引き続き、里親制度の支援を行う	子ども支援課
53	どならない子育て練習法講座 (旧コモンセンス・ペアレンティング講座(コモベ講座))	どならない子育て練習法講座(行動療法の理論背景をもとに、子どもを効果的にしつけられるスキルの体得を経験的に学習するプログラム)を子育て中の市民を対象に実施し、怒鳴らない、叩かない子育ての方法を伝えることで、子育てを支援し、ひいては児童虐待を予防する。	— (家庭児童相談室決算額に含まれる)	市民向け講座(セッション)2回/年 参加実人数20名 機関向け講座(セッション)参加実人数15名 子育て講座(出前講座含む)参加実人数27名 トレーナーグループ2回/年 参加実人数8名	4	3	5	— (家庭児童相談室予算額に含まれる)	市民向け講座(セッション)2回/年 個別講座(セッション) 機関向け講座(セッション) 子育て講座(出前講座含む) トレーナーグループ2回/年	引き続き講座を開	子ども支援課

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-5 障がい児施策の充実に向けた取組

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
54	保育・教育内容の充実	保育・教育・福祉・保健・医療の連携を更に強化し、障がいのある子どもが地域の保育園、学校に通い共に育ち、学ぶ環境の整備を人的支援と施設のバリアフリー化の両面から促進に努める。また、障がいや障がいのある子どもに対する教員や職員の理解を深める研修会等の機会を増やす。	87,000	指導員の資質向上のため、研修等を実施した。 保育士分科会講演会 20,000円 障がい児保育研究会講演会 20,000円 障がい児保育研究会事例研究会 20,000円 アフィリエイト等に関する研修会 13,500円×2回	3	4	4	120,000	指導員の資質向上のため、研修等を実施する。 給食調理員研修講演会 20,000円 保育士分科会講演会 20,000円 障がい児保育研究会講演会 20,000円 障がい児保育研究会事例研究会 20,000円×2回	引き続き研修等を実施する。	保育課
55	保育・教育内容の充実	保育・教育・福祉・保健・医療の連携を更に強化し、障がいのある子どもが地域の保育園、学校に通い共に育ち、学ぶ環境の整備を人的支援と施設のバリアフリー化の両面から促進に努める。また、障がいや障がいのある子どもに対する教員や職員の理解を深める研修会等の機会を増やす。	11,291,400	保育所等訪問支援事業等による地域支援及び児童の発達支援における連携の中核を担う児童発達支援センターについて、建設工事に係る設計等を完了した。	2	4	2	—	児童発達支援センターを中心とした、障がい児支援の機関連携の構築を検討する。		障がい者福祉課
56	保育・教育内容の充実	保育・教育・福祉・保健・医療の連携を更に強化し、障がいのある子どもが地域の保育園、学校に通い共に育ち、学ぶ環境の整備を人的支援と施設のバリアフリー化の両面から促進に努める。また、障がいや障がいのある子どもに対する教員や職員の理解を深める研修会等の機会を増やす。	2,410,560	片山小学校に階段昇降車を導入した。	4	3	3	2,544,480	施設の利用状況を考慮するとともに、必要かつ合理的な範囲で、適切に対応を図る。		教育総務課
57	保育・教育内容の充実	保育・教育・福祉・保健・医療の連携を更に強化し、障がいのある子どもが地域の保育園、学校に通い共に育ち、学ぶ環境の整備を人的支援と施設のバリアフリー化の両面から促進に努める。また、障がいや障がいのある子どもに対する教員や職員の理解を深める研修会等の機会を増やす。	—	保育・教育・福祉・保健の連携を強化し、障がいのある子供が地域の学校に通い共に育ち、学ぶ環境の人的支援を促進した。また、障がいのある子供たちに対する教職員の理解を深める研修会等実施した。	3	3	4	—	引き続き、保育・教育・福祉・保健の連携を強化し、障がいのある子供が地域の学校に通い共に育ち、学ぶ環境の人的支援を促進していく。また、障がいのある子供たちに対する教職員の理解を深める研修会等実施していく。		教育相談センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-5 障がい児施策の充実に向けた取組

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
58	障がいのある子どもへの 保育・教育相談の充実	福祉事務所や保健センター等の関係機関の相談機能を強化するとともに、各機関が連携し、適切な相談活動ができるよう努める。教育相談センターでは、障がいのある子どもの早期からの教育相談体制など、より気軽に相談できる体制の整備充実を図る。	—	各関係機関と連携を取って適切な相談活動ができるよう努めた。	3	3	3	—	関係機関との連携を図り、適切な相談活動ができるよう努めていく。		生活支援課
59	障がいのある子どもへの 保育・教育相談の充実	福祉事務所や保健センター等の関係機関の相談機能を強化するとともに、各機関が連携し、適切な相談活動ができるよう努める。教育相談センターでは、障がいのある子どもの早期からの教育相談体制など、より気軽に相談できる体制の整備充実を図る。	11,099,633	障がい児相談支援サービスの提供に係る基盤整備を推進した。	5	3	4	13,921,680	引き続き、障がい児相談支援サービスの提供に係る基盤整備を推進する。		障がい者福祉課
60	障がいのある子どもへの 保育・教育相談の充実	福祉事務所や保健センター等の関係機関の相談機能を強化するとともに、各機関が連携し、適切な相談活動ができるよう努める。教育相談センターでは、障がいのある子どもの早期からの教育相談体制など、より気軽に相談できる体制の整備充実を図る。	1,360,000	保育方針に役立てるため、言語・心理・療育3分野での有資格者による巡回相談を希望園で実施し、障がい児保育に関してサポートを行った。 H28年度：言語相談27件、心理相談18件、療育相談23件	3	3	4	1,620,000	前年度に引き続き言語・心理・療育の3分野での有資格者による巡回相談を希望園で実施する。		保育課
61	障がいのある子どもへの 保育・教育相談の充実	福祉事務所や保健センター等の関係機関の相談機能を強化するとともに、各機関が連携し、適切な相談活動ができるよう努める。教育相談センターでは、障がいのある子どもの早期からの教育相談体制など、より気軽に相談できる体制の整備充実を図る。	—	児童福祉課（家庭児童相談室を含む）では、適切な相談活動ができるように、障がい者福祉課、保健センター、教育相談センター等と連携を図り、相談機能の強化を図った。	5	3	5	—	児童福祉課（家庭児童相談室を含む）では、適切な相談活動ができるように、障がい者福祉課、保健センター、教育相談センター等と連携を図り、相談機能の強化を図る。	引き続き、適切な相談活動ができるように連携を図る。	こども支援課
62	障がいのある子どもへの 保育・教育相談の充実	福祉事務所や保健センター等の関係機関の相談機能を強化するとともに、各機関が連携し、適切な相談活動ができるよう努める。教育相談センターでは、障がいのある子どもの早期からの教育相談体制など、より気軽に相談できる体制の整備充実を図る。	629,752	小児科医師及び保健師、栄養士、作業療法士による相談を行っている。 実施回数：12回 延べ来所者数：45名	4	3	5	660,000	小児科医師及び保健師、栄養士、作業療法士による相談を行う予定。 実施回数：12回(予定) 延べ来所者数：48名(予定)		保健センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-5 障がい児施策の充実に向けた取組

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
63	障がいのある子どもへの 保育・教育相談の充実	福祉事務所や保健センター等の関係 機関の相談機能を強化するととも に、各機関が連携し、適切な相談活 動ができるよう努める。教育相談セ ンターでは、障がいのある子ども の早期からの教育相談体制など、より 気軽に相談できる体制の整備充実を 図る。	—	障がいのある子供たちの早期から の教育相談体制など、より気軽に 相談できる体制の整備充実を図っ た。また、関係機関と連携し、適 切な相談活動ができるよう努め た。	3	3	3	—	引き続き、障がいの ある子供たちの早期 からの教育相談体制 など、より気軽に相 談できる体制の整備 充実を図る。また、 関係機関と連携し、 適切な相談活動がで きるよう努めてい く。		教育相談センター
64	児童発達支援施設みどり 学園、わかば学園の充実	みどり学園、わかば学園の療育基盤 整備を図り、療育機能を充実する。	—	児童発達支援センターの開設に向 け、両学園の交流保育等により療 育機能の充実に向けた体制強化を 図った。	4	4	3	—	引き続き、両学園の 統合及び児童発達支 援センター化の準備 の中で、療育機能の 充実を検討する。		障がい者福祉課
65	在宅福祉サービスの推進	障がい者ができる限り住み慣れた地 域で生活できるよう、訪問介護等 の在宅福祉サービスを更に充実する とともに、地域での生活の充実や社 会参加の促進等の幅広い在宅福祉サ ービスを推進する。	76,119,750 (児童発達支援 233,430,495 (放課後テイ サービス)	児童発達支援及び放課後等テイ サービスの提供に係る基盤整備を 推進した。	3	4	3	76,400,731 (児童発達支援 273,224,685 (放課後テイ サービス)	障がい児相談支援 事業所の立てた計画 に基づき、重度の障 がい児に対し、居宅 介護の在宅福祉サ ービスを必要に応じて 導入する。児童発達 支援や放課後等テイ サービスの提供に係 る基盤整備を推進す る。		障がい者福祉課
66	障がい者医療とリハビリ テーションの充実	幼児期から成人期、高齢期にわた って地域の医科、歯科医療ケア体制 の充実と日常的な医学的リハビリテ ーション体制の整備を行うとともに、 県総合リハビリテーションセンター 等の専門機関との情報交換などの ネットワークづくりを推進する。	—	医療、医学的リハビリテーション に関わる機関との連携を図るよう 努めた。また、県総合リハビリ テーションセンター等が開催する 研修に積極的に参加した。	2	3	3	—	引き続き、県総合リ ハビリテーションセ ンター等との連携を 図り、研修等へ積極 的に参加すること で、情報交換に努 め、ネットワークづ くりを推進する。		障がい者福祉課
67	児童発達支援センターの 設置	療育相談、指導訓練等が必要な児童 を総合的に支援する児童発達支援セ ンターの設置について検討する。	11,291,400	児童発達支援センター開設庁内検 討委員会を開催し、事業内容、人 員配置及び施設規模の検討を行っ た。	1	4	1	—	建設に向け、児童発 達支援センター開設 庁内検討委員会を開 催し、事業内容、人 員配置及び施設規模 の検討を行う。		障がい者福祉課
68	発達障がい者支援マネ ージャー育成研修	埼玉県が実施している「発達障がい 児・者支援プロジェクト」として発 達障がい者支援専門員としてのマ ネージャー育成研修に福祉・保健・ 保育・幼稚園等の職員を積極的に参 加させていく。	—	新たな発達支援マネージャー育成 研修修了者は2人で、発達支援サ ポーター育成研修修了者は15人 であった。	4	3	4	—	育成研修の周知を図 り、参加を呼び掛け る。		障がい者福祉課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標1 すべての子どもが健やかに、幸せに育つことを応援するために

1-5 障がい児施策の充実に向けた取組

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
69	障がい児保育の充実	障がいのある子どもで、集団保育が必要とされる子どもを保育する障がい児保育の充実を図る。	1,360,000	言語相談謝礼金20000円×30回、心理相談謝礼金20000円×19回、療育相談謝礼金20000円×19回	3	4	4	1,580,000	言語相談謝礼金20000円×30回、心理相談謝礼金20000円×26回、療育相談謝礼金20000円×23回	引き続き、障がい児保育の充実を図る。	保育課
70	障がい児保育研究会	障がい児保育をめぐる諸問題を研究協議し、障がい児保育を推進する。	40,000	障がい児保育研究会講演会20,000円 障がい児保育研究会事例研究会20,000円	3	4	4	60,000	障がい児保育研究会講演会20,000円 障がい児保育研究会事例研究会20,000円×2回	引き続き研修等を実施する。	保育課
71	介助員制度	肢体不自由で車椅子等を使用する児童生徒に対して、学校生活を円滑に送るために介助員を配置する。	11,217,600	肢体不自由等で車椅子を使用する児童生徒に対して、学校生活を円滑に送るために介助員を配置した。 介助員14名配置	4	3	5	11,191,950	肢体不自由で車椅子等を使用する児童生徒に対して、学校生活を円滑に送るために介助員を配置していく		教育相談センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標2 すべての親が子育てを楽しみ、子どもと共に成長できることを応援するために

2-1 親になるための学習支援

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
72	子育て講座	小・中学校入学前の子どもを持つ保護者に対し「就学時健康診断」や「入学説明会」等の機会を利用して、家庭教育や思春期に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図るとともに、明日の親となる中学生を対象に子育てに関する講座を実施する。	410,000	子育て講座（A）（B）は、小・中学校入学前の保護者を対象に23講座を実施した。（C）は中学生を対象に27コマ実施した。 （A）新小学1年生保護者1,483人 （B）新中学1年生保護者1,326人 （C）中学生1,088人が参加した。	4	3	4	538,000	継続して実施予定		こども支援課
73	育児関連講座の充実	乳幼児期の子どもの成長に関わる正しい知識や親の役割、家庭環境づくりなど育児に関する学習機会の提供に努める。	101,063,000	運営を委託している地域子育て支援センターにおいて、子育てに関する講座などを実施した。	4	3	4	101,075,000	継続して実施予定		こども支援課
74	育児関連講座の充実	乳幼児期の子どもの成長に関わる正しい知識や親の役割、家庭環境づくりなど育児に関する学習機会の提供に努める。	1,232,160	講座数 10講座 開催数 67回 延べ参加人数 1,000人	4	3	4	1,355,840	講座数 10講座 開催数 69回 延べ参加人数 1,727人	少子化の中、子育てに関する情報を必要とする方に如何に確立を高く周知する方法を検討する。	中央公民館
75	パパママ学級	第1子出産予定の母親と家族を対象に妊娠・出産・育児について学ぶ場を提供することで、育児不安の解消や地域の仲間づくりに寄与する。また、栄養士による妊娠期・授乳期の食生活の改善と望ましい食事に関する学習の機会を設け、知識・情報の提供を行う。	307,793	第1子出産予定の母親と家族を対象にパパママ学級を年4回実施。延べ433名が参加。妊娠・出産・育児について学ぶと共に地域の仲間づくりの機会とした。	4	3	5	288,000	引続き、妊娠届出時にチラシを配布し、広報やホームページ等でも周知の徹底を図る。またH29年度からプログラムを変更し、3回コースをプレママコース2回、ベビーコース1回に分けて、年4回開催予定。		保健センター
76	育児学級	生後2～4か月の第1子を持つ保護者を対象に、育児に関する知識や地域の情報を学ぶ場を提供し、育児不安の軽減を図るとともに地域の仲間づくりの機会とする。	328,748	生後2～4か月の第1子をもつ保護者を対象に、年6回実施し、延533組が参加。保健師、栄養士、子育てネットワークの話、離乳食実習を行った。フリートークの時間を設け、地域の仲間づくりの機会となるように配慮した。	4	3	5	364,000	今後も引き続き、年6回開催予定。赤ちゃん訪問や広報などで周知を図り、定員に達した場合でも、1・3回目は参加できるように配慮していく。また、回収したアンケートから、意見や要望を反映したプログラム内容の検討を行う。		保健センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標2 すべての親が子育てを楽しみ、子どもと共に成長できることを応援するために

2-1 親になるための学習支援

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
77	乳幼児健診の場を通じた 情報提供	乳幼児家庭での食育を支援するために、乳幼児健診や育児学級等において、保護者を対象に望ましい食生活及び食育に関する資料・情報の提供を行う。	—	乳幼児家庭での食育を支援するため、乳幼児健診や育児学級、食育教室等において、保護者を対象に望ましい食生活や食育、離乳食の進め方、乳幼児の食事及び幼児のおやつに関する資料の提供及び情報提供を行った。また、3歳児健診において食育紙芝居を実施し及び食育に関するチラシを配布した。乳幼児健診96回、育児学級6回、食育教室1回（2日）実施。	4	3	5	—	乳幼児家庭での食育を支援するため、乳幼児健診や育児学級、食育教室等において、保護者を対象に望ましい食生活や食育、離乳食の進め方、乳幼児の食事及び幼児のおやつに関する資料の提供及び情報提供を行う。また、3歳児健診において食育紙芝居を実施し及び食育に関するチラシを配布する。乳幼児健診96回、育児学級6回、食育教室1回（2日）実施予定。		保健センター
78	父子手帳の配布	妊娠、出産、育児に対する心構え、協力の仕方など父親向けの育児情報を提供する。	63,067	父親に対し、必要な育児知識の普及を図るとともに、積極的な育児参加を促すため、妊娠届出時、パパママ学級などで希望者に配布した。 配布数663冊	4	3	5	88,558	父親に対し、必要な育児知識の普及を図るとともに、積極的な育児参加を促すため、妊娠届出時、パパママ学級などで希望者に配布する。		保健センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標2 すべての親が子育てを楽しみ、子どもと共に成長できることを応援するために

2-1 親になるための学習支援

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
79	育児学級・パパママ学級への参加啓発	夫婦が協力して出産、育児に臨めるよう父親の参加を促進するとともに、父親が積極的に参加できるよう講座内容を検討する。	636,541	育児学級：父親の参加数延27名。 パパママ学級：父親の参加数延170名	4	3	5	652,000	より多くの父親に参加してもらうため、パパママ学級、育児学級のチラシ等で周知の徹底を図る。		保健センター
80	多胎児の親子の交流会「さくらんぼ」への支援	多胎児親子の支援のため、多胎児育児に関する情報提供や仲間づくりの場を提供する。	—	NPO法人にいざ子育てネットワーク主催の「びーんずサロン」の案内を乳幼児健診のお知らせに同封したり、保健事業等で案内するとともに、個別で家庭訪問や面接等で支援を実施した。	3	3	4	—	引続き、多胎児親子支援のため、「びーんずサロン」の案内の同封や保健事業を通じて周知するとともに、個別対応での支援を実施する。		保健センター
81	主に小学生以上の保護者を対象にした事業	各公民館が地域の小・中学校と合同で、保護者向けの家庭教育に関する講演会を実施する。	69,760	講演会 2回（中央、畑中公民館） 参加人数 270人	3	3	4	101,680	講演会 2回（中央、畑中公民館） 募集人数 80人	毎年子育てについてタイムリーなテーマを選定することに苦慮している。常にアンテナを張って情報収集に努める。	中央公民館

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標2 すべての親が子育てを楽しみ、子どもと共に成長できることを応援するために

2-3 ひとり親家庭の自立支援の推進

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
87	ひとり親自立支援プログラム策定事業	児童扶養手当受給者の自立を促進するため、ひとり親自立支援プログラム策定員を設置し、個々のひとり親家庭の実情に応じた自立支援プログラムを策定する。さらに、必要に応じ生活保護受給者等就労支援事業を活用し、公共職業安定所等と緊密に連携しつつ、きめ細やかで確実な就業・自立支援を行う。	2,448,085	ひとり親自立支援プログラム策定事業 平成28年度実績 39件	3	3	2	2,501,000	目標達成後もアフターケアを行い、制度の充実を図る予定。		こども支援課
88	ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	雇用保険制度に基づく教育訓練給付を受ける資格の無いひとり親家庭の父又は母に対し、就職に必要な資格などを得るための教育訓練講座受講費用の一部を負担することによって資格取得を支援する。	118,908	対象講座の指定申請 2件 支給申請 2件	3	3	2	300,000	平成29年度より雇用保険による教育訓練給付金受給対象者には、市から4割給付する。		こども支援課
89	ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業	ひとり親家庭の父又は母の就労に直結する資格取得を促進するため、2年以上養成機関などで修業する場合に生活を支援する目的で促進費等を支給する。	4,073,000	・高等職業訓練促進給付金 受給者：6名（延べ42か月） ・高等職業訓練修了支援給付金 受給者：1名	3	3	2	6,100,000	平成28年度より対象資格を拡大し、支給期間を「2年」から「3年」へ変更し、事業実施予定。		こども支援課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標3 地域で子どもや親の成長を支えるまちづくりを応援するために
3-1 地域における子育て支援のネットワークづくり

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
90	子育てサークル等への活動の支援	公民館、児童センター、集会所などにおいて、子育てサークル等の活動する機会や場所の提供を行う。	—	市内43か所の集会所を利用に供する。	4	3	4	—	引き続き、市内43か所の集会所を利用に供する。		地域活動推進課
	子育てサークル等への活動の支援	公民館、児童センター、集会所などにおいて、子育てサークル等の活動する機会や場所の提供を行う。	—	地域子育て支援センターにおいてサークルの育成支援及び活動支援を実施した。 (なかま保育いれるか係長に確認)	3	3	3	—	継続して実施予定		こども支援課
	子育てサークル等への活動の支援	公民館、児童センター、集会所などにおいて、子育てサークル等の活動する機会や場所の提供を行う。	35,000	講座数 8講座 開催数 97回 延べ参加人数 1,353人	4	3	4	20,000	講座数 8講座 開催数 97回 延べ参加人数 1,860人	リピーター頼りでの開催であり、参加人数にばらつきがある。周知方法と併せ、開催曜日や時間、場所出し物に工夫が必要と考える。	中央公民館
91	子育てNPOの活動支援	NPO法人の活動を活性化するため、活動の場を提供するとともに、NPO活動への市民の理解を深めるための情報提供を行う。また、分野の異なる団体同士の相互交流を実施していく。	122,472	平成29年2月に「地域デビューセミナー」を開催し、市内NPOをはじめとしたボランティア、地域活動団体に参加を呼び掛け、PRの場を提供した。 参加団体数 27団体 来場者数 129名	3	3	3	146,000	引き続き、NPOの活動を活性化するため、「地域デビューセミナー」を開催し、市内NPOをはじめとしたボランティア、地域活動団体に参加を呼び掛け、PRの場を提供する。		地域活動推進課
	子育てNPOの活動支援	NPO法人の活動を活性化するため、活動の場を提供するとともに、NPO活動への市民の理解を深めるための情報提供を行う。また、分野の異なる団体同士の相互交流を実施していく。	—	子育て支援に関するNPO法人2団体に、地域子育て支援センター等の運営を委託し、活動支援を行った。 新座市児童センター及び福祉の里児童センター運営管理 地域子育て支援センター3か所 なかまほいく事業委託 子育てサロン ネットワークフェスティバル	4	3	4	—	引き続き各種事業において、NPOの活動の場の提供等行う。		こども支援課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標3 地域で子どもや親の成長を支えるまちづくりを応援するために
3-1 地域における子育て支援のネットワークづくり

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
92	幼保小交流研修会の充実	幼稚園・保育園と小学校の職員が一堂に会して、円滑な移行や卒園までの達成目標等について協議する等の研修を行う。また、近隣の小学校に卒園前の園児が訪問する交流体験を行う。	—	幼保小連携推進協議会の予定に沿って、小学校教職員や保育士等が協力し、小学校教育への移行や卒園までの達成目標等について協議する等の研修を行った。また、卒園前の園児が近隣の小学校を訪問して交流体験を実施した。	3	3	3	—	幼保小連携推進協議会の予定に沿って、小学校教職員や保育士等が協力し、小学校教育への移行や卒園までの達成目標等について協議する等の研修を行う。また、卒園前の園児が近隣の小学校を訪問して交流体験を実施する。		保育課
	幼保小交流研修会の充実	幼稚園・保育園と小学校の職員が一堂に会して、円滑な移行や卒園までの達成目標等について協議する等の研修を行う。また、近隣の小学校に卒園前の園児が訪問する交流体験を行う。	18,000	・幼保小の円滑な連携を目指して、夏季全体研修会を行った。保育士と幼稚園、小学校の教師が100名以上集まり研修を行った。 ・年度末に5歳児保護者向け啓発リーフレットを作成し、配布した。	3	3	5	18,000	・夏季全体研修会を行い、連携事業の成果等の発表連携の研修を行う。 ・7月～11月の間に各小学校区を中心に連携事業を行う。 ・実績報告、5歳児向けリーフレットを作成する。	・現状のまま、事業を継続していく。	指導課
93	学校施設の開放	学校施設や余裕教室を活用して整備したコミュニティ施設等として開放し、地域の学習機会の充実を図る。	—	利用登録をした9団体ほか、地域の団体に学校施設を開放した。	3	3	5	—	登録団体ほか、地域の団体に学校施設を開放する。		教育総務課
	学校施設の開放	学校施設や余裕教室を活用して整備したコミュニティ施設等として開放し、地域の学習機会の充実を図る。	—	学校施設や余裕教室を活用して整備したコミュニティ施設等として開放し、地域の学習機会の充実を図った。19校で、58団体に校庭・98団体に体育館を開放した。	4	3	4	—	学校施設や余裕教室を活用して整備したコミュニティ施設等として開放し、地域の学習機会の充実を図る。	なし	生涯学習スポーツ課
94	主任児童委員連絡会議	委員間の情報交換や研修の場として、地域における児童の健全育成に関わる委員の資質の向上を図る。	—	主任児童委員の連絡会議を4回行い、関係機関との連携についての勉強会や情報交換を行った。そのうち2回は地区会長も含めての会議を実施した。延べ参加人数55人。	3	3	3	—	連絡会議や勉強会を通じ、関係機関との情報交換を適切に行えるよう、委員の資質の向上に努めていく。		福祉政策課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標3 地域で子どもや親の成長を支えるまちづくりを応援するために
3-1 地域における子育て支援のネットワークづくり

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
101	新座っ子ばわーあっぶくらぶ事業	地域の教育力の活性化と子どもたちの地域における学校外活動の一層の充実を図るために、地域住民の協力により自然体験・社会体験・スポーツなどの体験活動や、学習活動を実施する様々なクラブを運営する。	3,494,322	市内の全市立小学校17校の特別活動教室や体育館などを会場として、文化、学習、スポーツのジャンルで「くらぶ」を37クラブ開設し、年間を通じて活動を行った。延べ参加登録者数871人。	5	3	5	3,661,000	市内の全市立小学校17校の特別活動教室や体育館などを会場として、文化、学習、スポーツのジャンルで「くらぶ」を39クラブ開設し、年間を通じて活動を行う。参加登録者数893人。(12月末現在)	指導者が高齢化してきている。	生涯学習スポーツ課
102	地域ふれあい講演会	学校と地域が連携し多様な体験を持つ方の講演により、中学生に豊かな心を育むとともに広い意味での進路指導を行う。	120,000	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域が連携し多様な体験を持つ方に講演を頂き、中学生に豊かな心を育むとともに広い意味での進路指導を行った。 全中学校が講演会を実施した。 	3	2	5	120,000	<ul style="list-style-type: none"> 全中学校が7～1月に講演会を実施する。 外部講師に進路及びキャリアに関する講演を頂き、生徒の将来に向けた意識の向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育部内の予算計上の観点から、平成30年度以降は廃止する予定である。教育的な効果の高い取組ではあるが、各中学校のPTA会費での運営に委ねていきたいと考えている。 	指導課
103	学校懇談会	市内各小・中学校の教員と地域の民生委員・児童委員との懇談会による情報交換と、その後における地域での要保護児童の見守りなどの連携を図る。	—	市内各小・中学校の教員と地域の民生委員・児童委員との懇談会による情報交換と、その後における地域での要保護児童の見守りなどの連携を図った。	3	3	5	—	市内各小・中学校の教員と地域の民生委員・児童委員との懇談会による情報交換と、その後における地域での要保護児童の見守りなどの連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 現状のまま、事業を継続していく。 	指導課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標3 地域で子どもや親の成長を支えるまちづくりを応援するために
3-2 青少年を支援する取組

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
104	思春期保健相談体制支援事業	学童期・思春期における心の問題について、相談体制の充実を図る。	—	若年妊産婦への相談、訪問を実施するとともに、学童期・思春期の子どもを持つ保護者からの相談に対応した。	3	3	3	—	引続き、若年妊産婦への相談、訪問を実施するとともに、思春期に関する相談があれば、必要により関係機関への相談や病院受診を勧奨する。		保健センター
	思春期保健相談体制支援事業	学童期・思春期における心の問題について、相談体制の充実を図る。	7,761,600	教育相談室に教育相談員4人と学校カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、特に学童期・思春期における心の問題について電話や来談による相談体制の充実を図った。 平成28年度教育相談室相談件数6,450件	3	3	4	8,358,000	引き続き、教育相談室に教育相談員4人と学校カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、特に学童期・思春期における心の問題について電話や来談による相談体制の充実を図る。		教育相談センター
105	青少年市民会議の推進	青少年の健全な育成を市民総ぐるみで推進することを目的に、この会議の趣旨に賛同する者、青少年関係団体、関係機関をもって組織し、心の声かけ運動など様々な活動を行う。	2,388,962	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校区ふれあい地域連絡協議会と協力し、年2回の心の声かけ運動を実施した。(参加者数：第1回276人、第2回342人計618人) 市内全小学校6年生を対象としたふれあいコンサートを実施した。 青少年健全育成啓発ちらしを市内全小中学生に配布した。 	5	3	5	2,577,000	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校区ふれあい地域連絡協議会と協力し、年2回の心の声かけ運動を実施する。 市内全小学校6年生を対象としたふれあいコンサートを実施する。 青少年健全育成啓発ちらしを市内全小中学生に配布する。 ファミリー名作映画会を実施する。 		生涯学習スポーツ課
106	新座市PTA・保護者会連合会活動の推進	市内公立小・中学校をもって組織され、保護者及び教職員が一体となり、児童・生徒の福祉の増進と学校教育の振興に寄与するとともに、会員相互の研修と連絡協議を図ることを目的とした「新座市PTA・保護者会連合会」の様々な活動を支援し、推進する。	350,000	「支え合う、助け合う、愛ある未来へ」のスローガンの下、保護者と教職員が一体となり、児童生徒の福祉の増進と学校教育の振興に寄与するとともに、会員相互の研修と連絡強調を図ることを目的とした新座市PTA・保護者会連合会に対し、補助金の交付のほか、様々な活動を支援した。 補助金交付額：350,000円	5	3	5	350,000	「新座市PTA・保護者会連合会」に対し補助金を交付するとともに、様々な活動を支援し、推進していく。	PTA活動は任意活動であるが、これまでPTAが果たしてきた役割は大変重要であるため、学校・教育委員会とともに、児童・生徒の福祉の増進と学校教育の振興に寄与できるよう、一層の協力体制が必要である。	生涯学習スポーツ課

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標3 地域で子どもや親の成長を支えるまちづくりを応援するために
3-2 青少年を支援する取組

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
107	青少年団体の育成	子ども会連合会等の青少年の健全な育成と青少年教育の振興に資することを目的とした活動団体に対して助成を行う。	4,257,000	青少年の健全な成長に必要な資質の習得の機会を図っている団体に対して助成を行った。	4	3	5	4,257,000	子ども会連合会等の青少年の健全な育成と青少年教育の振興に資することを目的とした活動団体に対して助成を行う。		生涯学習スポーツ課
108	学校サポート推進事業 (キャリア教育職場体験)	キャリア教育の視点である、「生きること、学ぶこと、働くこと」の大切さを学習する機会とするため、全中学校の2年生が3日間、地域の中で様々な社会体験活動に取り組む。	863538	キャリア教育の視点である、「生きること、学ぶこと、働くこと」の大切さを学習する機会とするため、全中学校の2年生が3日間、地域の中で様々な社会体験活動に取り組んだ。新座中204人、第二中314人、第三中218人、第四中197人、第五中233人、第六中207人、計1373人。	4	3	5	865000	キャリア教育の視点である、「生きること、学ぶこと、働くこと」の大切さを学習する機会とするため、全中学校の2年生が3日間、地域の中で様々な社会体験活動に取り組む。 新座中：6/6～6/8 第二中：7/11～7/13 第三中：10/17～10/19 第四中：11/28～11/30 第五中：7/4～7/6 第六中：6/26～6/28	現状のまま、事業を継続していく。	指導課
109	いじめ等青少年の問題行動対策事業	いじめ等青少年の問題行動へ対応するために、各中学校にさわやか相談室を開設し、6人のさわやか相談員が相談活動を行うとともに、教師がカウンセリングマインドを持って積極的な生徒指導が行えるよう学校カウンセリング研修会を開催する。	11,902,800	中学生及びその保護者等からの述へ相談件数4,433件	4	3	4	11,903,000	いじめ等青少年の問題行動へ対応するために、各中学校にさわやか相談室を開設し、6人のさわやか相談員が相談活動を行うとともに、教師がカウンセリングマインドを持って積極的な生徒指導が行えるよう学校カウンセリング研修会を開催する。		教育相談センター

平成28年度子ども・子育て支援事業計画関連施策（推進・管理事業）

基本目標3 地域で子どもや親の成長を支えるまちづくりを応援するために
3-3 安心して外出できる環境の整備

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の 場合は理由を記載)	所管課
110	子育てバリアフリー情報の提供	乳幼児を連れて外出する際の遊び場、授乳コーナー、子ども連れに優しいトイレの設置場所などを示した子育てバリアフリー情報を提供する。	—	市内公共施設のうち授乳やおむつ替えなどの対応が可能な施設を「赤ちゃんの駅」として指定し、ホームページ等で周知を図った。	4	3	4	—	継続して実施予定		こども支援課
111	キッズコーナーの設置	子ども連れの来庁者が窓口で申請手続をスムーズに行うことができるようにするための環境を整備する。	—	キッズコーナーの管理を実施した。	4	3	5	—	引続きキッズコーナーの管理を実施する。		こども支援課
112	児童遊園、公園の整備・充実	子どもの安全な遊び場を確保するため、児童遊園、公園の整備・充実を図る。	公園施設整備 11,924,763円 児童遊園施設 整備 18,910,152円	公園等の整備及び 施設のリニューアル	4	4	4	公園施設整備 25,263,000円 児童遊園施設 整備 9,800,000 円	公園等の整備及び 施設のリニューアル	公園の新設及び 児童遊園の廃 止	みどり公園課
113	新座市立小・中学校学校防災マニュアルの活用	災害時における学校の教職員、児童生徒の基本行動について共通理解を図る。(1)災害時における教職員の基本行動・活動組織(2)災害時における児童生徒の基本行動(授業時間前・授業時間中・授業時間後)(3)災害時における保護者、地域への連絡体制	—	災害時における学校の教職員、児童生徒の基本行動について共通理解を図った。	4	3	5	—	災害時における学校の教職員、児童生徒の基本行動について共通理解を図る。		指導課

基本目標3 地域で子どもや親の成長を支えるまちづくりを応援するために

3-4 子どもを犯罪等の被害から守るための活動の推進

番号	事業名	事業概要	決算額(円)	平成28年度実績	事業の普及度	時代的要請度	進捗度	平成29年度予算額(円)	平成29年度の予定	事業の課題等 (事業の拡大・廃止の場合 は理由を記載)	所管課
114	健全育成対策の充実	子どもが心身ともに健全に成長できるよう、非行防止啓発活動、文化、スポーツ等コミュニティ活動、青少年活動指導者の育成等を通じて地域社会が一体となり、健全育成対策を推進する。また、子どもの権利を侵害する児童買春、ポルノ等を防止するため、児童買春・児童ポルノ禁止法を普及啓発する。	—	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年市民会議主催による心の声かけ運動を市内中学校で年2回実施した。（参加者数618人） ・子ども会連合会、青少年相談員協議会の実施する各種イベントを通じ、青少年健全育成活動を推進した。 	3	3	3	—	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年市民会議主催による心の声かけ運動を市内中学校で年2回実施する。 ・子ども会連合会、青少年相談員協議会の実施する各種イベントを通じ、青少年健全育成活動を推進する。 		生涯学習スポーツ課
115	情報モラル教育の推進	小・中学校において、情報モラル教育を推進する。	—	児童生徒への情報モラル教育の他、保護者への啓発を積極的に行っている。	3	3	5	—	<p>「情報モラル教育」を扱った授業の推進を図り、授業参観時に公開するなどし、家庭への普及啓発を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のまま、事業を継続していく。 		指導課